

2021



ヤチヨ企業理念

基本理念

人 間 尊 重
顧 客 第 一

社 是

わたしたちは、世界的視野に立ち、
お客様の満足のために、
卓越した技術と特長ある製品を供給する。

行動指針

- 常に夢をもち若さを保つこと。
- 感性を磨き技を鍛えること。
- 安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
- 時間と独創性を重んじること。
- 自らの目標に向かって粘り強く努力すること。

ヤチヨグループが目指す目標

ヤチヨグループはヤチヨ企業理念の実践を通じて、
「社会からその存在を認められ、期待される企業を目指す」



わたしたちは企業理念に基づき、行動規範を定め倫理的企業活動に努めています。
<https://www.yachiyo-ind.co.jp/profile/csr/governance/>



会社概要

社 名	八千代工業株式会社
英 文 社 名	Yachiyo Industry Co., Ltd.
設 立	1953年8月27日
代 表 者	加藤 憲嗣
資 本 金	36億8,560万円
正 規 従 業 員 数	単独：838名 連結：6,819名 (2021年3月31日現在)
本 社	〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393番地
電 話	04-2955-1211 (代表)
証 券 取 引 所	東京証券取引所JASDAQスタンダード上場



目 次

ヤチヨ企業理念	1	品質マネジメント	21
八千代工業について	3	サプライチェーンマネジメント	22
沿革	5	人材マネジメント	23
トップメッセージ	7	社会貢献	25
CSRマネジメント	9	コーポレートガバナンス	27
環境マネジメント	11	環境データ	31
安全衛生マネジメント	17	財務・非財務ハイライト	33

クルマの機能部品（燃料タンク・サンルーフ）の開発・製造と樹脂製品・補修パーツの製造などを行っています。

四 輪

二輪・四輪向けの樹脂製部品を製造しています。高い気温や紫外線の影響などを受ける厳しい環境下でも高い品質を実現しています。



クルマを修理する場合などに交換で必要となる補修用の樹脂および板金部品を、生産から梱包まで一貫して手掛けています。

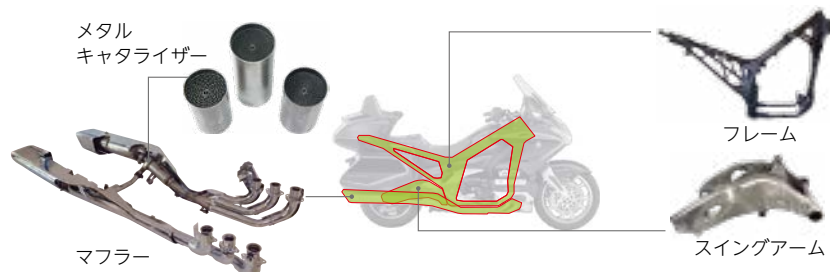


衝突時などの安全設計や環境規制への対応に加え、広い車内空間に寄与するために、薄型化や形状を進化させた製品を供給しています。



二輪

子会社である合志技研工業グループで、排気部品、骨格部品などを製造しています。



合志技研工業は、1974年、熊本県合志町（現：合志市）にヤチヨ、Hondaおよび三恵技研工業株式会社の3社合併で設立されました。その後、2002年にヤチヨが株式を追加取得し子会社化しました。



中国

- 八千代工業(中山)有限公司
- 八千代工業(武漢)有限公司

中国 2 拐点

日本
8拠点

アジア
7拠点

アジア

タイ

- サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド
- サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド

ベトナム

- ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド

フィリピン

- ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド

インド

- ヤチヨ インディア マニファクチャリング プライベート リミテッド
- ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド

インドネシア

- ピーティーヤチヨトリミトラ インドネシア

日本

- 本社
- 埼玉研究所
- 柏原工場
- 栃木研究所
- 鈴鹿工場
- 合志技研工業株式会社
- 亀山事業所
- 株式会社ウエムラテック

米州

6拠点

米州

米國

- ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド
- エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド
- ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド
- ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル
ル シー

メキシコ

- ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー
デシー ブイ

ブラジル

- ヤチヨド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ
-
- ペサス リミターダ

地域別売上収益

1,572億円

(2021年3月期)

地域別売上収益

1,572億円

(2021年3月期)

地域	売上収益 (百万円)
アジア	49,033
日本	21,409
中国	57,693
米州	29,097

地域別正規従業員数

6,819名

(2021年3月期)

地域	従業員数
アジア	3,371名
日本	1,374名
米州	966名
中国	1,108名
その他	681名
合計	6,819名

(2021年3月期)

沿革

COMPANY

1953.8.27
八千代塗装(株)を設立

1960
鈴鹿工場を設立



1968
八千代工業(株)に
商号変更

1972
柏原製作所
(現 柏原工場) を設立



1986
栃木研究所を開設



1989
初の海外拠点を
カナダに設立
(現在は全事業を譲渡)

1997
タイにサイアム ヤチヨ
カンパニー リミテッド
を設立

米国にヤチヨ オブ
アメリカ インコーポ
レーテッドを設立

米国にエー ワイ
マニュファクチャリング
リミテッドを設立

1998
亀山事業所を設立



1999
米国にユー エス ヤチヨ
インコーポレーテッドを
設立



2000
米国にヤチヨ
マニュファクチャリング
オブ アラバマ エル エル シー
を設立
(2014年10月 ヤチヨ
マニュファクチャリング
オブ アメリカ エル エル シー
に社名変更)



2002
中国に八千代工業
(中山) 有限公司を
設立



2004
大阪証券取引所(現 東京証券取引所)
JASDAQスタンダード株式上場

2005
中国に八千代工業
(武漢) 有限公司を設立



2008
インドにヤチヨ インディア マニュファクチャリング
プライベート リミテッドを設立



2009
ブラジルにヤチヨ ド ブラジル
インダストリア エ コメルシオ
デ ペサス リミターダを設立



2012
埼玉研究所を開設



メキシコにヤチヨ メキシコ
マニュファクチャリング エス
エー デシー ブイを設立



インドネシアにピー ティー
ヤチヨ トリミトラ インドネシア
を設立



PRODUCTS

燃料タンク

1977
鉄製燃料タンクを
柏原製作所で
生産開始



1999
日本初量産
4種6層樹脂製
燃料タンクを柏原工場
で生産開始



2017
燃料蒸散量の低減を可能とする機能部品
内蔵タンクをユー エス ヤチヨ インコーポ
レーテッドで生産開始



▶開発中
低炭素社会に貢献する
水素を燃料とする燃料
電池車向けタンク

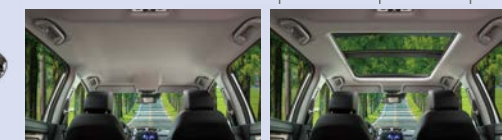


サンルーフ

1986
サンルーフを
柏原製作所で
生産開始



2014
開口部が広く、快適な室内空間を実現する
パノラマサンルーフを八千代工業(中山) 有
限公司以生産開始

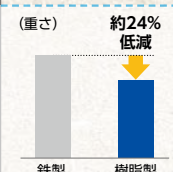



樹脂製品

1982
樹脂成形部品を
生産開始



▶開発中
構成する部品の統合や削減などを行い、
樹脂ならではの軽さを生かした樹脂パッ
クドアモジュール

その他

1972
「ステップバン」の完成車組立により
四輪受託生産スタート(現在は終了)



2012
運転補助装置の
開発・架装を開始



2014
陸上競技用
車いすの製造開始



2017
「Yachiyo Custom Parts」を
発売



2021
「ドライビングシミュレータ」を生産開始



■ トップメッセージ



持続可能な社会の実現に向け、 ヤチヨ企業理念を实践

設立以来、「お客さまを大切に」を信条として経営にあたってきた創業者のもと、ヤチヨは成長・発展してきました。この創業者の哲学である「人間尊重」と「顧客第一」の二つの信念を基礎に、「ヤチヨ企業理念」を定めています。「ヤチヨ企業理念」では、「基本理念」「社是」「行動指針」を定めており、この考え方の一つひとつは、持続可能な社会の実現につながると認識しています。ヤチヨでは、グローバルで働く全員が「ヤチヨ企業理念」の実践を通

じ、「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指しています。

第14次中期方針と施策推進について

ヤチヨは企業理念や培ってきたノウハウ・教訓、共通の価値観を念頭に、2030年のありたい姿を「ものづくりの弛まぬ進化でモビリティのキーカンパニーになる」としてVision2030を策定しました。その達成に向け、2020年4月からの第14次中期（20-22中期）を「さらなる成長の基盤づくり」の期と位置づけ、前中期で課題と

なった北米地域における生産体質の大幅な改善や、品質領域の盤石化による収益性の改善と信頼の回復などを進めてきました。また、さらなる成長・飛躍に向けた仕込みや筋肉質な体質づくりなど、将来を見据え「競争力強化・ものづくり進化」「事業基盤の盤石化」「グローバルQD体質の強化」「人と組織の活性化・人材強化」「企業価値向上に向けたサステナビリティ展開」の5つの重点施策を掲げ、全社一丸となって推進しています。

その施策の一つに、これまで培ってきた製品・技術を生かし、クルマの大変革期を乗り越えるために進めているのが樹脂事業であります。これまで鉄製が主流だったドアパネルなどを樹脂製へ置き換え、モジュール化することにより車体を軽量化し、航続距離を延ばせると考えています。同時に、地球温暖化の抑制や脱炭素社会を目指す上で魅力的なアイテムとなり得ることから、これまで磨いてきた塗装技術、培ってきた設計技術を生かし樹脂事業を発展させていきます。

そしてもう一つは、現状の生産規模のままでも確実に収益を上げられる筋肉質な生産体質の構築です。樹脂製燃料タンクは各地域によって特性が異なることから、地域の特性に合わせて最適な生産ラインを構築し、成形時の要件を最適化させて加工ロスの低減や作業効率の向上により環境負荷軽減に取り組んでいます。

そして、このような課題に取り組む上で大切なのが、組織風土です。従業員と経営層とが直接対話をする機

会を増やし、従業員全員がより生き生きと働けるように改革を進めています。この対話で挙げられた女性活躍推進や再雇用者の活躍などの課題は一つずつ改善し、よりよい職場づくりに向けて取り組んでいます。

モビリティのキーカンパニーを目指して

脱炭素に向けた取り組みは、完成車を生産するメーカーだけでなく、そこに部品を納品するサプライヤーにまで広がり、自動車業界全体で取り組む大きな活動へ進化しています。また、世界的に拡大した新型コロナウイルスの影響は人々の生活様式を大きく変化させ、社会に対し課題をもたらしました。

ヤチヨはこれまで、多くの進化する自動車技術に対応し、お客さまのニーズに合わせて自らの技術を進化させ、多くの製品を世界中へお届けしてきました。創業以来、さまざまなものづくりで得た豊富なノウハウと粘り強く仕事に取り組む姿勢こそがヤチヨの強みであると自負しています。この強みを生かし社会環境やお客さまニーズの変化に確実に応え、急務であるカーボンニュートラルや半導体不足など、足元の課題に取り組み、ヤチヨで働く全員で2030年のありたい姿「ものづくりの弛まぬ進化でモビリティのキーカンパニーになる」を目指します。

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

CSRマネジメント

基本的な考え方

近年、気候変動や生物多様性の損失、貧困や格差、紛争や人権侵害など、環境、社会問題が多様化する中、企業には「環境」「社会」「経済」の視点から社会的課題の解決に積極的に取り組むことが求められています。

ヤチヨが行う事業そのものはもちろん、普段から取り組んでいる省エネルギーや節水、安全・品質活動、従業員への福利厚生など、すべての行動がCSR活動として社会的課題と密接につながっています。

このような新たな潮流の中、これからもヤチヨは企業理念の共有と実践を通じて、企業価値向上に向けた事業を展開することで、「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指します。



Environment

Social

Governance



環境マネジメント

環境基本方針 / 環境マネジメント体制 / 環境マネジメントシステム / エコプロダクツ / 3Rへの取り組み / 気候変動への取り組み / マテリアルフロー / 2020年度 環境目標・環境実績 / 2021年度 環境目標 / 省エネルギー / オゾン層保護・地球温暖化への対応 / 汚染防止対策 / 法規制への対応



安全衛生マネジメント

安全衛生方針 / 安全管理体制 / 安全衛生委員会 / 安全巡視 / 安全衛生に関するリスクアセスメント・点検等の実施 / 安全衛生教育の実施 / 災害防止に向けて / 交通安全講習 / 無事故・無違反の取り組み / 安全運転講習 / 防災活動の取り組み / 新型コロナウイルス感染症の予防対策



品質マネジメント

品質方針 / 品質保証体制 / 品質マネジメントシステムの運用 / QCサークル活動の取り組み



サプライチェーンマネジメント

調達の考え方 / 購買理念 / 購買原則



人材マネジメント

人材育成の基本的な考え方 / 職場環境 / ダイバーシティ



社会貢献

地域に根差した活動

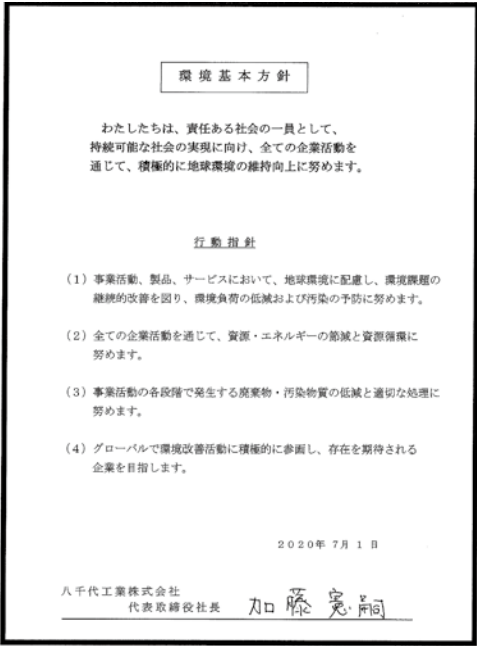


コーポレートガバナンス

基本的な考え方 / 企業倫理改善提案窓口 / コーポレートガバナンスへの対応 / リスクマネジメント基本方針 / リスクマネジメント体制 / リスクマネジメント実績 / 新型コロナウイルス感染症に伴うリスク対応 / 株主・投資家コミュニケーション

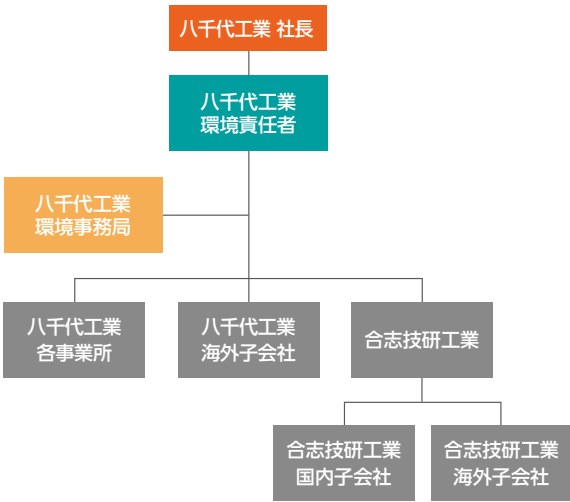
環境基本方針

ヤチヨでは、下記の環境基本方針および行動指針に基づき、さらに各事業所においてそれぞれの方針を定め、環境保全活動を推進しています。



環境マネジメント体制

ヤチヨグループとして環境への取り組みをさらに迅速なものとするため、環境責任者および事務局との連携強化を目的とし、全ての事業所と直結の体制としました。
各事業所に統括責任者と推進責任者を配置し、海外事業所においては現地法人社長を統括責任者としています。



環境マネジメントシステム

国内事業所2地区、国内子会社1社、海外子会社14社で、ISO14001認証取得しています。

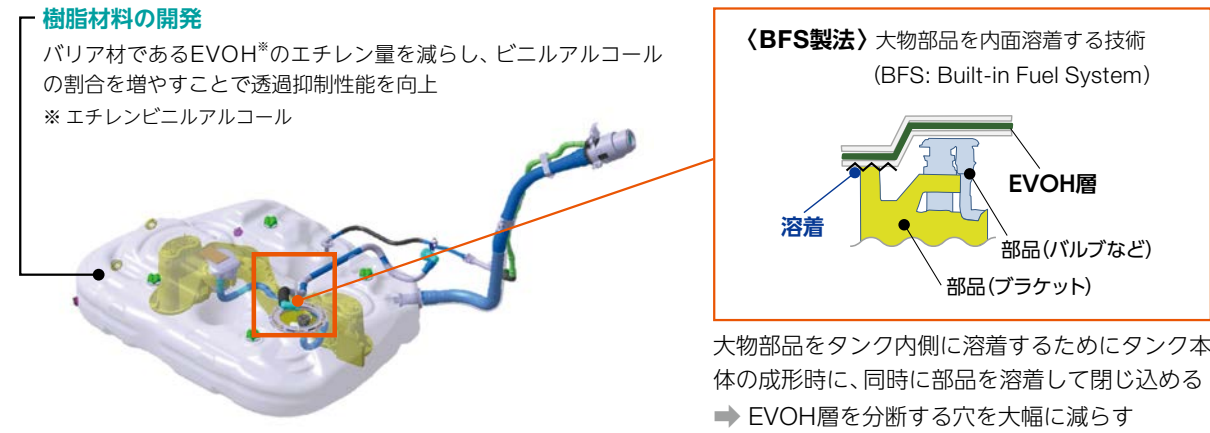
● ISO14001 認証取得状況

国 / 地域	拠点名
日本	八千代工業株式会社 柏原地区 (本社・柏原工場・埼玉研究所)
	八千代工業株式会社 鈴鹿地区 (鈴鹿工場・亀山事業所)
	合志技研工業株式会社
米州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (米国)
	エー ワイ マニュファクチャリング リミテッド (米国)
	ヤチヨ マニュファクチャリング オブ アメリカ エル エル シー (米国)
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチャリング エス エー デシー ブイ (メキシコ)
中国	ヤチヨ ド ブラジル イングストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ (ブラジル)
	八千代工業 (中山) 有限公司
	八千代工業 (武漢) 有限公司
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (タイ)
	サイアム ゴウシ マニュファクチャリング カンパニー リミテッド (タイ)
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (インドネシア)
	ヤチヨ インディア マニュファクチャリング プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド (ベトナム)
フィリピン	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (フィリピン)

エコプロダクツ

環境規制対応樹脂製燃料タンクの開発

クルマの燃料システムから放出される炭化水素に対しては、クルマの排ガスと同様に、世界中で規制が強化されています。
ヤチヨは、この環境規制を独自の技術でクリアしています。



3Rへの取り組み

Reduce (リデュース)

【樹脂製燃料タンク】

クルマの部品として、さらなる軽量化を推進しています。新材料 (高剛性材) を適用することにより、燃料タンク本体の剛性、耐圧性、耐衝撃性などを維持し、限界まで肉厚を薄くしました。これにより、従来よりも15%の軽量化を実現しています。
今後も、さらなる軽量化を目指し、薄肉化のほか、新たな部品構成方法などの検討を進めていきます。

【サランーフ】

近年、クルマは地球環境保護の観点から燃費向上が求められており、そのために軽量化を図る必要があります。ヤチヨのサランーフは従来品に対し、大幅な軽量化を実現しました。
また、車内の快適性向上のため、薄型化による車内空間の確保、低作動音による静しゅく性の向上などに配慮した製品を生産しています。

Recycle (リサイクル)

【樹脂製燃料タンク】

1. 燃料タンク成形時に発生するバリ (不要部分) を粉碎精製し再生材 (リサイクル材) にして、燃料タンクの素材として使用することで、歩留まりの向上を実現しています。



2. ガス漏れ検査装置に使用しているヘリウムガスを、検査完了後、回収精製装置で回収し、繰り返し利用することにより、環境影響の最小化に取り組んでいます。

気候変動への取り組み

地球温暖化による気候変動への対応が求められる中、ヤチヨにおけるエネルギー起源のCO₂排出量のみならず、非エネルギー起源の排出量、スコープ3に該当するその他の間接排出量においても把握することにより、温室効果ガスの低減に取り組んでいきます。

※電力換算係数は、国内固定係数0.378を使用

2020年度 温室効果ガス排出量

GHGプロトコル		排出量
スコープ1	エネルギー起源	4,297t-CO ₂
	非エネルギー起源	33t-CO ₂
スコープ2	間接排出	11,947t-CO ₂
スコープ1+スコープ2 合計		16,277t-CO ₂
スコープ3	カテゴリ1の一部	1,921t-CO ₂
	カテゴリ9	2,557t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

- GHGプロトコル …… 温室効果ガス (Greenhouse Gas) 排出量の算定と報告の基準
- スコープ …… 温室効果ガス排出内容の定義
 - スコープ1 (直接排出量) = 事業者自らによる直接排出、燃料の燃焼、工業プロセスなど
 - スコープ2 (エネルギー起源間接排出量) = 他社から供給された電気、熱、蒸気の使用
 - スコープ3 (その他の間接排出量)
- カテゴリ …… スコープ3を15項目+その他 (任意) に分けたもの

CO₂排出量 低減施策

事業環境の変化に影響されにくい低減管理として、施策によって低減したCO₂排出量を把握できるようにしています。ヤチヨでは国内の事業所を対象に、全施策を環境委員会で一元管理し、全社環境委員会の開催時に事例報告を行い、情報共有と水平展開を図っています。主に、エネルギー効率向上の施策として高効率設備への更新、また、ロス削減の施策として既存設備の改善を実施するなどの施策も含め、42施策を展開しました。

管理項目	目標	実績
CO ₂ 排出量 低減施策効果	160t-CO ₂ /年	225t-CO ₂ /年 (42施策)

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

マテリアルフロー

事業活動 (研究開発、営業、購買、製造、管理) 全般における資源・エネルギーの投入量 (Input) と排出量 (Output) を把握し、事業活動を行っています。

● 投入量 (Input)

区分	項目	使用量
エネルギー	電力 (買電)	31,608MWh
	灯油	20kL
	軽油	0kL
	LPガス	9.5t
	都市ガス	1,853千m ³
水資源	電力 (太陽光)	0MWh
	地下水	0m ³
	工業用水	23,646m ³
化学物質	上水	52,074m ³
	取扱量	302t
原材料	鋼材	451t
	樹脂材	6,150t



● 排出量 (Output)

区分	項目	使用量
排出	CO ₂	16,244t-CO ₂
	NOx	0.2t
	SOx	0t
	排水	26,885m ³
化学物質	VOC	348t
	PRTR対象物質	177t
	産業廃棄物	623t
廃棄物 原材料	直接埋処分	0t
	社外リサイクル	623t
	有価物	3,835t

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

- NOx…窒素酸化物
- SOx…硫黄酸化物
- VOC…Volatile Organic Compounds = 揮発性有機化合物
- PRTR…Pollutant Release and Transfer Register = 化学物質排出移動量届出制度

2020年度 環境目標・環境実績

ヤチヨは、責任ある社会の一員として、全社方針として環境活動のグローバル展開を進めており、とりわけ気候変動 (地球温暖化)、エネルギーリスクを重要課題と認識し、環境負荷のさらなる低減に向けて取り組みを継続しています。

達成度判定 ○=95%以上 △=80%以上 ×=80%未満

区 分	目 標	実績値	達成度
エネルギー起源CO ₂ 総排出量 ^{※1}	21,600t-CO ₂ 1990年度比28%減	16,244t-CO₂	○
CO ₂ 排出量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比1%減	8.8%増	△
VOC排出量 原単位 ^{※2} (塗装面積当たり原単位)	2019年度比1%減	3.0%減	○
水資源使用量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比1%減	6.9%増	△
廃棄物量 原単位 ^{※2} (付加価値額原単位)	2019年度比1%減	8.4%減	○
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)	160t-CO ₂	225t-CO₂	○

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

電力係数は、日本固定 1 MWh当たり0.378 t-CO₂を使用しています。

※1 CO₂総排出量は、業界団体 (一般社団法人 日本自動車工業会、一般社団法人 日本自動車車体工業会) の公表値2020年目標28%削減 (1990年比) に準じ、長期目標を設定して排出量管理を実施

※2 CO₂排出量、VOC排出量、水資源使用量、廃棄物量の原単位は、13次中期最終年度 (2019年度) を基準年度として、14次中期は、毎年度原単位1%減に設定
2020年度より、資源問題の観点から廃棄物の定義を有償物 (産業廃棄物、事業系一般廃棄物) + 有価物に変更

2021年度 環境目標

2020年度から2022年度にかけての中期3カ年の環境目標を設定しています。2021年度の目標は下記の通りとなります。

今後もヤチヨは、持続可能な社会の実現に向けて、環境活動を企業活動の中核課題とし、活動を強化していきます。

項 目	目 標
エネルギー起源CO ₂ 総排出量 ^{※1}	26,000t-CO ₂ 2013年度比21%減
CO ₂ 排出量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比2%減
VOC排出量 原単位 (塗装面積当たり原単位)	2019年度比2%減
水資源使用量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比2%減
廃棄物量 原単位 (付加価値額原単位)	2019年度比2%減
CO ₂ 排出量 低減施策効果 (前年度総排出量 1.0%相当分削減)	161t-CO ₂

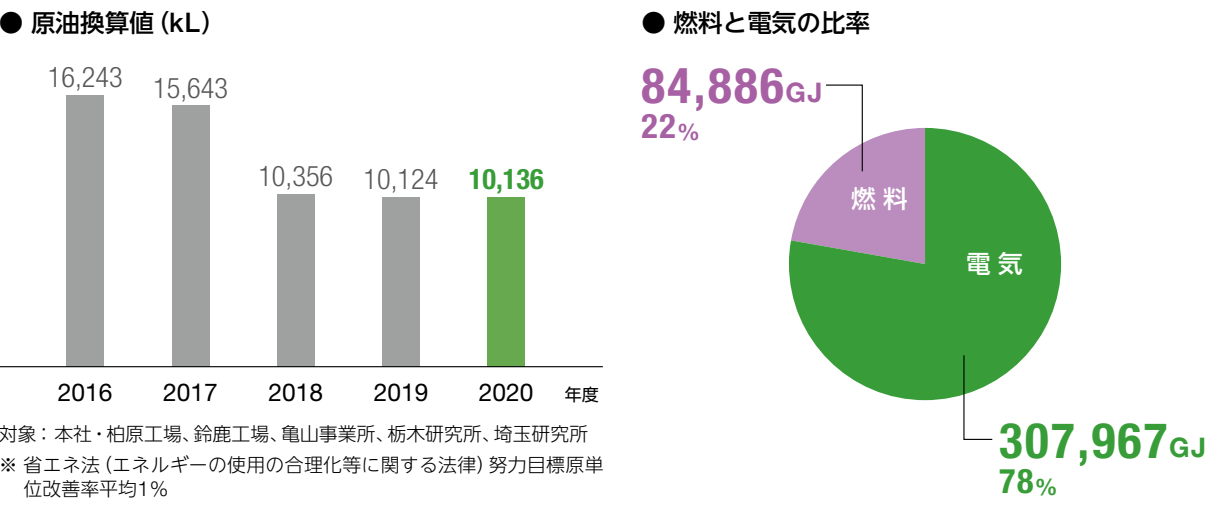
対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所

電力係数は、日本固定 1 MWh当たり0.378 t-CO₂を使用しています。

※1 CO₂総排出量は、日本国が公表した2013年度比46%削減を基に2020年度CO₂総排出量目標の見直しを行いました。

省エネルギー

2020年度のエネルギー使用量は、原油換算値で10,136kLとなり、前年度比100.1%となりました。原単位は、対前年度比98.1%、5年度間平均原単位変化において100.3%となりました。
今後も省エネ法の努力目標達成に向け、省エネ活動をさらに強化していきます。



オゾン層保護・地球温暖化への対応

第 1 種特定製品

ヤチヨでは、第1種特定製品の機器のリスト化、点検表の整備を行い、全事業所でフロン排出抑制法への対応を行っています。2020年度の算定漏えい量について、下表の通り報告義務はありませんでした。

冷媒ガス	漏えい量	GWP	CO ₂ 換算
R32	0.35Kg	675	0.24t-CO ₂
R410A	0.93Kg	2,090	1.94t-CO ₂
R507A	6.60Kg	3,990	26.33t-CO ₂
R407C	2.00Kg	1,770	3.54t-CO ₂
算定漏えい量			32.05t-CO ₂

対象：本社・柏原工場、鈴鹿工場、亀山事業所、栃木研究所、埼玉研究所
事業者は、第1種特定製品の簡易点検（1回／四半期）、一定規模以上の機器においては、有資格者による定期点検（1回／年または1回／3年）が義務化され、整備に伴う冷媒ガスの漏えい量（充填量と回収量の差）が、1,000t-CO₂（GWPによるCO₂換算）以上の場合、事業所管大臣への報告が必要となる。

汚染防止対策

柏原工場、鈴鹿工場では、過去に土壌および地下水の調査を行った結果、環境基準値を超えるテトラクロロエチレンが検出されたため、2004年から地下水揚水バリア井戸を設置し、浄化装置にて浄化を継続して行っています。
毎年定期的に浄化状況の測定を行い、市に報告を行っています。

法規制への対応

環境関連の法規制遵守状況

2020年度、環境関連の法令違反はありませんでした。

環境関連の法の執行状況

省エネ法において、2016年度に制度化された事業者クラス分け評価制度において、2020年度はSクラス評価でした。クラス分けの判断基準となる2019年度定期報告の結果は、原単位対前年度比93.1%、5年度間平均原単位変化96.2%でした。

環境に関する苦情・トラブル

地域などから苦情を受けた場合、全社で情報共有を行い、同様の環境に関する苦情・トラブルの再発防止を図っています。
2020年度、地域などからの苦情はありませんでした。



安全衛生マネジメント

安全衛生方針

ヤチヨでは、下記の全社安全衛生方針に基づき、各事業所においてそれぞれの方針を定め、安全衛生活動を推進しています。

全社安全衛生方針

理念

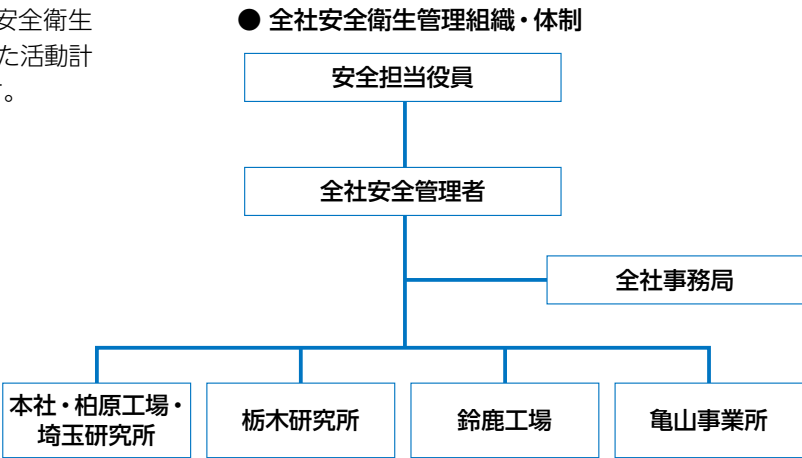
ヤチヨは、ヤチヨで働く一人ひとりが安心して働ける労働環境を維持するために、職場環境のリスクを適切に管理し、安全で衛生的な職場づくりを行う。

方針

- 安全衛生関係諸法令、および社内規定を遵守するとともに、必要な自主基準を設け管理レベルの向上を図る。
- 職場の整理・整頓・清掃・清潔・しつけを徹底し、安全で衛生的な職場の維持向上に努める。
- 喫煙に関するルールやエチケットを守り、受動喫煙防止を徹底する。
- リスクアセスメント活動を活性化し、災害の未然防止に努める。
- 職場の異常や、不具合を発見した場合は適切な処置をするとともに、直ちに上司に報告する。
- 緊急時の対応手順や連絡先を常に把握し、災害発生時は、人命の安全を優先し被害の拡大防止に努める。
- 全従業員の安全教育とコミュニケーションを図り、全員参加の安全衛生活動を実行する。
- 過重労働およびメンタルヘルスによる健康障害を防止するため、衛生管理体制の充実を図り、従業員の健康確保対策を推進する。
- 健康経営を積極的に進め、従業員の生活習慣病の未然防止を図り、健康増進に努める。
- 本方針の実行に当たっては適切な資源を投入し、効果的な改善を継続的に実行する。

安全管理体制

安全担当役員をトップとする全社安全衛生委員会は、目標や実施項目などを定めた活動計画を年度ごとに策定し推進しています。



安全衛生委員会

ヤチヨで働く一人ひとりが安全で安心して働ける労働環境を維持するために、職場環境のリスクを適切に管理し、安全で衛生的な職場づくりを行っています。1年に4回の全社安全衛生委員会を開催し、拠点ごとの活動の確認と事業所内巡視を行うことで労働災害防止につながる活動を行っています。

また、各事業所では、毎月安全衛生委員会、交通安全委員会、防災委員会をそれぞれ開催し、労使一体で安全衛生活動の改善に取り組んでいます。

安全巡視(全社安全衛生委員会)

柏原工場	5月	新型コロナウイルス感染症の影響によりWeb会議を実施
栃木研究所	8月	
鈴鹿工場	11月	
亀山事業所	1月	新型コロナウイルス感染症の影響によりWeb会議を実施

安全衛生に関するリスクアセスメント・点検等の実施

鈴鹿工場、亀山事業所では事業所のリスクアセスメントを実施し、顕在化されたリスクのうちリスクレベルの高い13項目について改善しました。

各事業所において生産設備などの定期的なメンテナンスや法定点検を実施し、点検結果を確認しました。

安全衛生教育の実施

新入社員や新規に管理監督者となった従業員に対して安全衛生、交通安全に関しての教育を実施しました。

新入社員教育	4月	10月
新任管理監督者教育(指導員、主任、管理職)	6月	7月
メンタルヘルス教育(セルフケア教育)	12月	



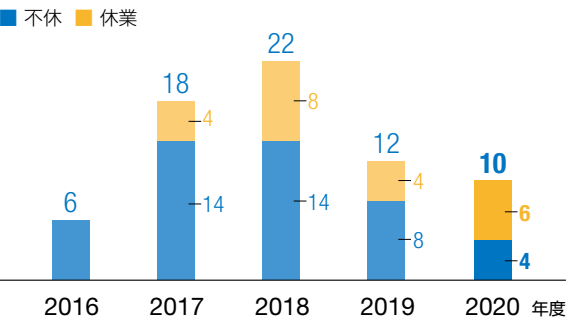
安全衛生マネジメント

災害防止に向けて

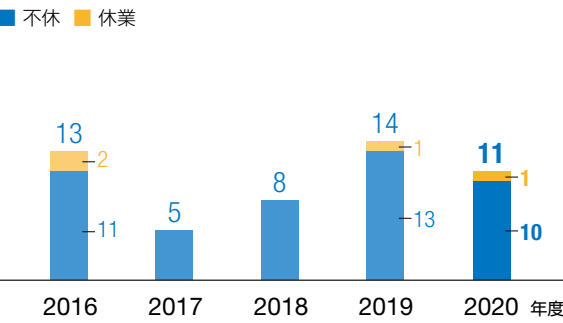
2020年度 国内外災害発生状況

業務安全や、交通安全ではさまざまな取り組みを行い、2019年度と比較し減少傾向ではあるものの、2021年度も引き続き重点課題と捉え、全社で安全衛生に関する取り組みを行います。

● 業務災害件数



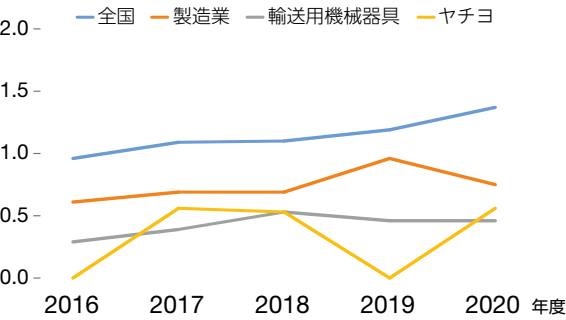
● 交通災害件数



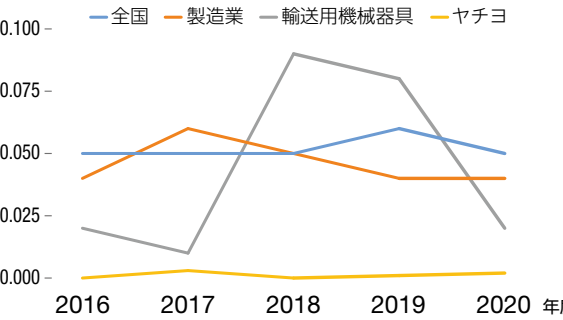
国内事業所における度数率、強度率比較

国内事業所の2020年度における休業災害は業務災害で1件発生しました。度数率で0.56、強度率で0.02となりました。災害の原因の深掘りを行い、再発防止と他事業所への水平展開を実施しています。また、災害“ゼロ”を実現するため、職場のリスクアセスメントの強化および従業員への安全教育を継続して実施しています。

● 度数率



● 強度率



※ 製造業：輸送用機械器具製造業（500～999人）

交通安全講習

全従業員を対象とし、交通安全講習を2020年6月～12月に実施しました。

無事故・無違反の取り組み

事業所別に、公安委員会等の無事故・無違反コンクールに登録し従業員一人ひとりが取り組みました。

- 栃木研究所
無事故無違反チャレンジ…………… 3チーム（9名）参加
- 本社・柏原工場・埼玉研究所
交通安全コンクール…………… 10チーム（100名）参加
- 鈴鹿工場・亀山事業所
無事故・無違反チャレンジ123…………… 80チーム（240名）参加

安全運転講習

2020年12月にツインリンクもてぎで開催された安全運転講習に栃木研究所から10名が参加し、安全運転意識の向上につなげました。

講習内容

- ① 運転姿勢指導（運転の正しい姿勢についての確認）
- ② 慣熟走行（講習車両に慣れるための走行）
- ③ 低μブレーキ走行（路面摩擦の違いによる制動距離の変化を確認）
- ④ スキッドリカバリー走行（講習車両の横滑りを発生させ、コントロールの難しさやとっさの場合の修正方法を確認）

防災活動の取り組み

災害発生時の対応マニュアルの整備

災害（地震、火災、風水害）を想定した対応マニュアルを各事業所で策定し、従業員へ周知しています。総合防災訓練等で実施検証した結果を対応マニュアルに反映し、繰り返し改善活動を行っています。

総合防災訓練の実施

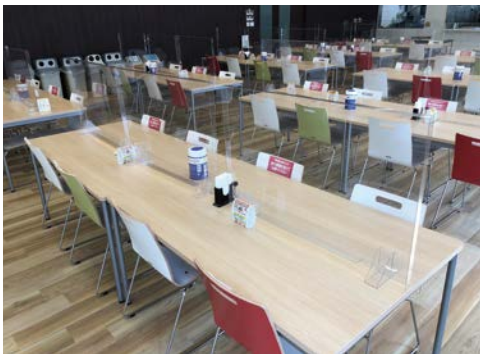
各事業所ごとに有事を想定した総合防災訓練を実施し、従業員の役割の再認識を行っています。
栃木研究所……………10月 本社・柏原工場・埼玉研究所……………11月 鈴鹿工場・亀山事業所……………10月

夜間防災訓練の実施

地震、火災により電気の供給が停止したことを想定し、非常灯での避難や初期消火および通報ができるかを含め夜間の訓練を実施しています。
柏原工場……………7月

新型コロナウイルス感染症の予防対策

事務所や食堂に飛沫防止対策としてパーテーションを設置しています。
また、会議室や食堂では人数制限を行い、密閉・密集・密接を避ける取り組みを行っています。
共有スペースには、アルコールスプレーや除菌シートなどを設置し、使用後に従業員自ら除菌をしています。
来社されるお客さまには、受付時の検温や、手・指のアルコール除菌にご協力いただくなど、さまざまな感染予防対策を講じています。



品質方針

「顧客第一」を徹底し、私たちの製品を購入・使用していただく全てのお客さまの満足を得るために、全員参加で、グローバルに通用する信頼性の高い製品を提供します。

行動指針

お客さま要求事項への適合を図り、

1. 品質方針を達成するため、品質目標を設定し、推進する。
 2. 開発からサービスに至る全工程で品質マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的改善を図る。
 3. 品質管理のルールを守り、安定した品質の製品を提供する。
 4. お客さまおよび市場の要求品質を反映した製品設計仕様で、絶えず商品性向上を図る。
 5. 独創的で信頼性の高い製品を提供するために、常に技術および技能の向上を図る。
 6. サプライヤーとの共創で、製品品質の維持向上を図り、高品質の製品を提供する。
- これらの品質管理活動が、現場視点で、常に、検証されること。

品質保証体制

全社の品質保証活動を統括する「全社品質保証責任者」と各機能で補佐する「全社副品質保証責任者」を配置し、製造拠点の「品質保証責任者」との連携を強化することによって『グローバル品質保証』体制を構築しています。

品質マネジメントシステムの運用

品質国際標準規格である、品質マネジメントシステム (IATF16949／ISO9001規格) の認証取得を推進しています。海外を含めた生産拠点で規格の認証取得をしており、この認証取得を通じて、グローバルに通用する盤石な品質保証体制を維持・継続しています。

また、顧客第一を徹底する上でも、品質マネジメントシステムを有効に機能させることに重点をおき、より安全でより高品質な製品を提供し続け、さらなる品質向上を図っています。

●IATF16949/ISO9001 認証取得状況

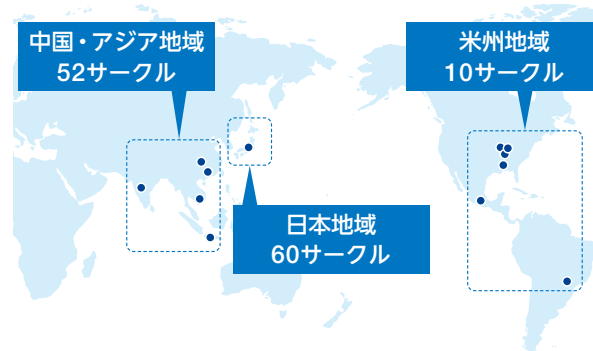
国 / 地域	拠点名
日本	八千代工業株式会社
	合志技研工業株式会社
米州	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (米国)
	エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド (米国)
	ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー (米国)
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー ブイ (メキシコ)
	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ (ブラジル)
中国	八千代工業 (中山) 有限公司
	八千代工業 (武漢) 有限公司
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (タイ)
	サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド (タイ)
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (インドネシア)
	ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (インド)
	ゴウシ タンロン オートパーツカンパニー リミテッド (ベトナム)
	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (フィリピン)

QCサークル活動の取り組み

ヤチヨでは、品質向上の一環として 海外を含め全ての拠点で「QCサークル活動」を行っております。

この活動の理念と狙いを共有しつつ活動の輪を広げ、働き甲斐のある明るい職場づくりはもとより、人材の活性化・職場の改善などで効果を上げてきました。

2020年度はコロナ禍による開催延期や縮小などの計画変更がありましたが、停滞させることなく活動を継続しています。



調達の方考え方

ヤチヨは、技術・製品の競争力、事業、人材でトップランナーとなり、社会からその存在を認められ、期待される企業を目指しています。 購買部門では競争力が高く魅力ある部品・材料の調達や取引を進めるにあたり「購買理念」、「購買原則」を定め、取引先との信頼関係を常に強化しています。

購買理念

良いものをタイミング良く適正な価格で、
永続的に進化を続ける、競争力ある調達を行う

購買原則

1. 取引先の尊重と相互信頼
取引先の主体性を尊重し、対等な立場で取引を行います。
2. 自由にチャレンジする調達
魅力ある製品を供給する取引先と積極的に取引を行います。
3. オープンで健全な調達
「ヤチヨ購買行動規範」を定め、オープンで健全な取引を行います。
4. 環境展開と法令遵守
サステナビリティに対し積極的に対応していきます。
〈 環境対応、紛争鉱物への対応、法令遵守、BCP、反社会的勢力の排除、安全・品質 〉

サステナビリティガイドラインの策定

ヤチヨでは、サステナビリティに対する考え方を取引先と共有し、積極的に対応するため「Yachiyo取引先サステナビリティガイドライン」を発行しています。このガイドラインを通じて、安全・品質、人権労働、環境、コンプライアンス、情報開示など問題事象の未然防止に努めています。

2020年度活動実績

1. コンフリクトミネラル (紛争鉱物) の調査実施

調査内容：3TG “タンタル”、“錫”、“金”、“タングステン”の含有の有無と3TGの供給元の製錬業者の特定調査を実施しています。

※コンフリクトミネラル (紛争鉱物) とは、「タンタル、錫、金、タングステン (略称：3TG)」と定義されています。
※米国金融規制改革法 (2010年7月) の条項に設けられました。

2. 温室効果ガスの排出量調査を実施

取引先46社に調査を実施しました。

3. Yachiyo製品化学物質管理基準書の改訂版発行 2020年4月、11月発行

ヤチヨでは、法規遵守と地球環境や生態系に与える影響の軽減を図ることを目的として、法規で使用する制限がある化学物質、法規で使用量の届出義務がある化学物質、業界として使用量を監視する化学物質および適用除外項目を明確にし、取引先と共有しています。

4. ヤチヨ購買活動に貢献された取引先の表彰実施

開発部門賞 2 社、品質部門賞 1 社、原価部門賞 3 社、ホンダ製品ご愛好部門賞 2 社

人材育成の基本的な考え方

ヤチヨ企業理念を基本とし、企業理念に定める5つの行動指針ごとの人材育成に取り組んでいます。

行動指針

- 常に夢をもち若さを保つこと。
- 感性を磨き技を鍛えること。
- 安全で明るく調和のとれた環境を作ること。
- 時間と独創性を重んじること。
- 自らの目標に向かって粘り強く努力すること。

「夢や希望を抱いてその実現のために思考し創造する存在」である従業員の成長と絶え間ない努力が組織を向上させ、ヤチヨを成長させ続ける原動力であると考えています。

職場環境

組織風土

従業員にとってより生き生きと働きがいのある職場・組織・会社をつくり上げていくことを目的として、以下の取り組みを進めています。

- 従業員意識調査
会社に対する満足度向上へ向けた定点観測と改善項目の抽出を行い、課題解決に向けて取り組んでいます。
- ラウンドテーブルミーティング
従業員と経営陣との対話を通じてコミュニケーションの活性化に取り組んでいます。
- メンタルタフネスチェック
従業員の心の健康状態を捉え、また従業員自身にもセルフケアを促すことで、心の健康管理の向上に取り組んでいます。
- マネジメント改革
事業環境の変化を乗り越えるリーダーシップのさらなる発揮を目的にマネジメント層の育成強化に取り組んでいます。

ワークライフバランス

従業員一人ひとりが会社で生き生きとその能力を発揮するためには、ワークライフバランスが重要であり、ヤチヨは「働きやすい職場」を目指すだけでなく、仕事と生活の両立に向けた各種制度の充実を図っています。

また、労使で協力して、適切な労働時間管理と長時間労働の抑制に取り組むとともに、年次有給休暇については、前年度から繰り越された分の100%取得を基本として推進しています。

年度	2018	2019	2020
組合員数(人)	751	757	750
有給休暇 平均取得日数(日/年)	19.0	19.1	18.4
繰越有給休暇取得率(%)	100	100	100
残業時間平均(時間/年)	249.4	203.3	187.3

ワークライフバランスに向けた取り組み

- ワークライフバランスを支援する勤務制度の拡充に積極的に取り組んでいます。
- フレックス勤務制度 …… 月間勤務時間の中で、日ごとの「始業」および「終業」時刻を自主的に決定できます。
 - 半日有給休暇制度 …… 年間10日分(20回)までを上限に有給休暇の半日単位での取得ができます。
 - 有給休暇 …… 前年度から繰り越された有給休暇(最大20日)を年度内に100%取得することを継続しています。
 - 看護休暇 …… 小学校就学前の子どもの看護を理由として、最大5日の(有給)休暇の取得ができます。
 - 介護休暇 …… 要介護状態にある家族の介護やその他の世話を理由として、被介護者一人に対し最大5日、二人以上の場合10日(無給)休暇の取得ができます。
 - ボランティア休暇 …… ボランティア活動への参加を理由として最大5日の(有給)休暇の取得ができます。

ダイバーシティ

次世代法・女性活躍推進法

次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境を整備することを目的として施行された「次世代育成支援対策法」に基づく行動計画の策定、および従業員周知、外部公表、都道府県労働局への届出を2020年度より女性活躍推進法と一体型にて実施しています。

目標①	女性従業員の採用率を10%以上とする
目標②	フレックスタイム制の拡充と在宅勤務などの柔軟な働き方に資する制度の導入を目指す

※女性採用実績は、P34「非財務関連データ(八千代工業単独)」参照

障がい者雇用

ヤチヨが今後も持続的に発展していくためには、基本理念である「人間尊重」に基づき、一人ひとりの違いを個性として認め尊重し合い、多様な人材が持てる力を存分に発揮することで、企業としての総合力を高めていく必要があります。

※障がい者雇用実績は、P34「非財務関連データ(八千代工業単独)」参照

【雇用継続への取り組みなど】

- 各事業所に、障がい者職業生活相談員を配置しています。
- 支援センターと連携し、当該従業員と定期的な個別面談を実施し、フォローアップを行っています。
 - 障がい者合同就職説明会などで求人活動を行い、求職者に対して職場見学を実施し、マッチングを図っています。配属時には本人の適性を十分考慮し、働きやすい環境づくりに努めています。また、フレックスタイム制の導入により、本人の体調に合わせた働き方ができる仕組みを整えています。
 - 障がい者スポーツへの積極的な支援の取り組みとしてパラアスリートを雇用し、競技活動を支援しています。
 - YVAP(ヤチヨ ボランティア アシスト プログラム)活動として、2013年より障がい者施設への支援をはじめとする地域に根差したボランティア活動も積極的に行っています。

多様な働き方実践企業認定制度

2013年12月11日付けで埼玉県の「多様な働き方実践企業認定制度」に「ゴールド」区分で認定され、2018年10月1日には「ゴールド+」の認定を受けました。

ヤチヨは、引き続き、多様な働き方を実践することで、生き生きと働き続けられる環境づくりを推進していきます。

地域に根差した活動

お客さまや社会の期待を上回る商品・サービスの提供をはじめとする企業活動を通じて、社会に貢献するよう努めます。

また、企業市民として社会的責任を果たすため、社会活動に取り組みます。

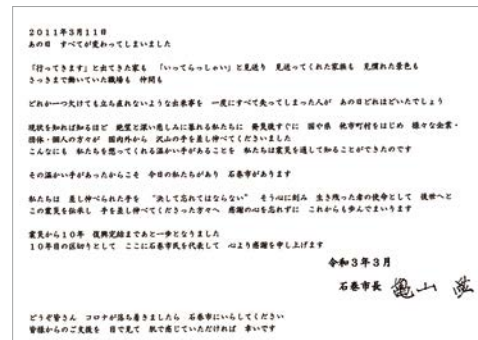
■日本

2011年の東日本大震災発生時、ヤチヨは被災した地域の方たちのために、少しでも力になりたいという思いから、2011年6月から宮城県石巻市において延べ229名で支援活動を実施しました。被害を受けた方々のニーズにあわせ、津波により被害を受けた個人宅からの泥出し、家財道具や畳の搬出などの活動を行いました。

現地ボランティアセンターからは、「半年間という長期にわたり、会社をあげてボランティア活動をしていただけた会社は、ヤチヨさんだけで、大変ありがたかった」と最大限の評価をいただきました。

「YVAP」（ヤチヨ ボランティア アシスト プログラム）は東日本大震災の復興支援活動を契機に誕生し、「誰かのために力になりたい」という思いは、今日の活動に引き継がれています。

東日本大震災の発生から10年の節目となった2021年3月、宮城県石巻市から当時の復興支援に対し、お礼のメッセージをいただきました。



石巻市長からの感謝状

○ 小学校陸上教室 実施日 2020年9月6日

○ ランニングクリニック 実施日 2020年12月6日

八千代工業陸上競技部は“走る”ことを通じて、地域交流を行っています。狭山市の教育委員会、スポーツ振興課と共同で行ったランニング教室では、ランニングフォームやトレーニングのアドバイスなどを行いました。今後もスポーツ振興や地域との交流に根差した社会貢献活動を行っていきます。



○ 学校訪問による特別授業 実施日 2020年10月19日・11月24日

パラリンピックに興味を持つ学校からの要望と、地域社会の多くの人に、パラリンピック競技や車いすマラソンに使用する車両について知ってもらいたいヤチヨの要望が合致し「特別授業」を実施しています。これからもより多くの方に知ってもらうため、継続していきます。



○ 工場見学受け入れ 実施日 2020年10月22日

地域の環境団体や工業会、学校などに対して、工場見学を通じヤチヨを知っていただく活動に力を入れ、理解していただけるよう努めています。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して、最小限の人数で実施しました。



○ 地域の皆さまへのポスティング活動 実施日 2021年2月24日

コロナ禍で不安を抱える地域の皆さまを元気づけるため、狭山市福祉協議会と連携し、従業員からのメッセージを届けるポスティング活動を行いました。



■中国

○ 小学校へ学習用品寄贈（八千代工業（武漢）有限公司） 実施日 2020年10月16日

企業の社会的責任として貧困扶助に努めてきました。長年にわたり、武漢市蔡甸区消泗郷九溝村の人々が貧困から脱却することを毎年の重要課題として活動に組み入れてきました。

教育環境を改善するために、小学校70名の生徒に教科書と学習用品を寄贈することで、成長の後押しをしました。



■米州

○ 支援機関へ玩具・衣類を寄付（ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー ブイ） 実施日 2021年1月6日

毎年「三賢者の日※」に恵まれない子どもや障がいのある子どもたちの支援機関である家族総合開発国家機構（DIF）へ従業員やご家族が使わなくなった玩具や衣類を集め、届けています。

※「三賢者の日」は良い子のもとへ三人の賢者から贈り物が届く日で、メキシコでは毎年子どもたちが楽しみにしている祝日です。



■アジア

○ 用水路清掃を通じ地域と環境に貢献（サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド） 実施日 2020年11月14日

毎年地域貢献活動として環境保護活動を行っています。

2020年度は近くの用水路の清掃活動を地域の方も一緒に行い、ゴミ・草木等の清掃を行いました。今後も地域と環境に役立つ活動を積極的に行っていきます。



基本的な考え方

ヤチヨは「人間尊重」「顧客第一」という基本理念に立脚し、株主や投資家の皆さまをはじめ、お客さま、社会からの信頼をより高め、「社会からその存在を認められ、期待される企業」となるため、コーポレートガバナンスの充実を経営の重要課題の一つと認識し、その取り組みを行っております。

組織運営においては、世界各地のお客さまの要請に応える事業運営を、迅速かつ適切に展開しながら、効果・効率の高い体制を構築しております。

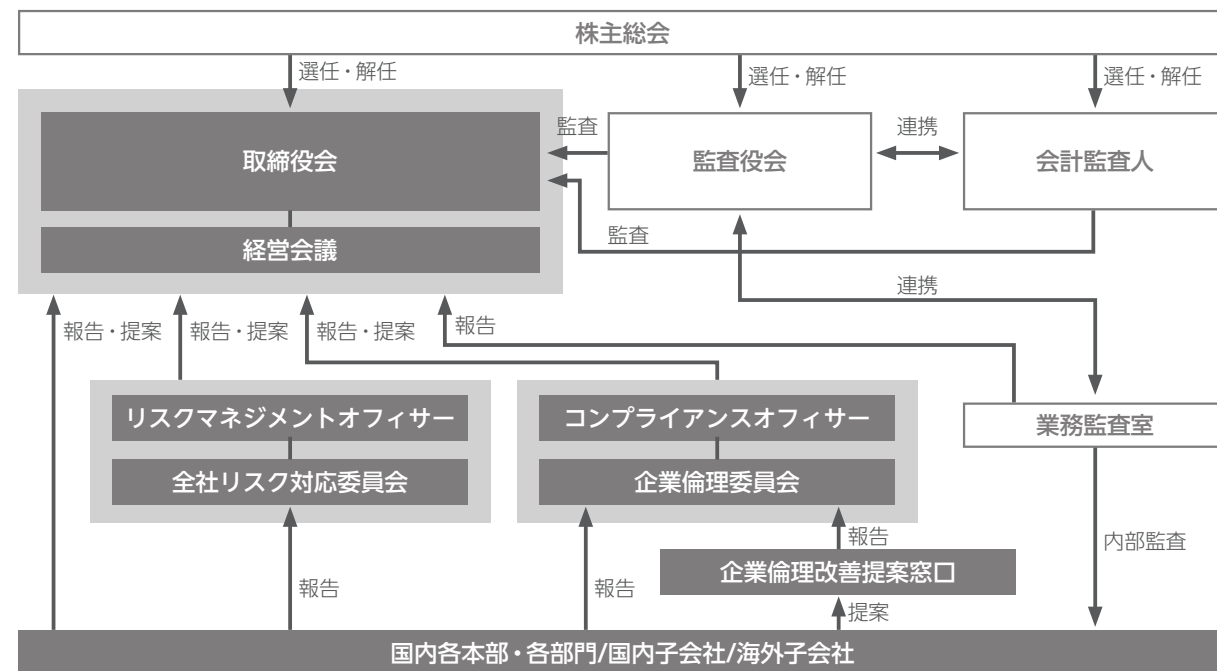
また、内部監査部門である業務監査室が各組織の業務活動全般の適法性、遂行状況について、効果的な監査を実施していくほか、各組織が自律性を高めながら、コンプライアンスやリスク管理に取り組んでおります。

経営の監視を客観的に行うため、社外取締役および社外監査役をおき、取締役会、監査役会において監督、監査を行っております。また、ヤチヨは、経営の監督機能と執行機能の分離、取締役会の機動性向上および経営の意思決定の迅速化を狙いとし執行役員制度を採用しております。

取締役については、経営環境の変化に対する機動性を高めるために、任期を1年としております。

株主や投資家の皆さまに対して、決算や経営政策の迅速かつ正確な公表や開示を基本とし、企業の透明性を今後も高めてまいります。

● コーポレートガバナンス体制の概要



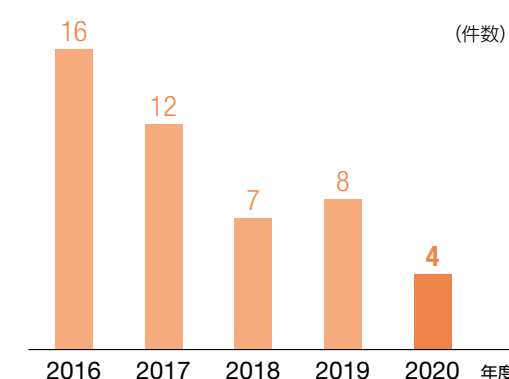
企業倫理改善提案窓口

ヤチヨは、企業倫理に関する問題の改善を図る仕組みとして「企業倫理改善提案窓口」を設置しています。

本窓口に寄せられた提案については、提案者が不利益を被ることのないようプライバシーの保護を図るとともに、公平・中立な立場で客観的に調査を実施し、適切な措置・対策を講じています。提案は、eメール、電話、手紙、FAXが活用でき、匿名での提案も受け付けています。また、女性が提案を受け付ける「セクハラ提案窓口」の設置や、外部窓口を設置することにより、提案しやすい環境の整備を図っています。

2020年度、「企業倫理改善提案窓口」（セクハラ提案窓口、外部窓口含む）への提案は4件ありましたが、全て対応は完了しております。

● 企業倫理改善提案窓口への提案件数の推移



コーポレートガバナンスへの対応

東京証券取引所が制定したコーポレートガバナンス・コードにおけるヤチヨの対応は、下記の通りとなります。

株主の権利・平等性の確保

ヤチヨは、株主の権利行使や平等性の確保ができるよう、株主総会に関する情報のできるだけ早い開示（企業ウェブサイトへの掲載、株主総会招集通知の早期発送）、株主総会集中日開催の回避など、権利行使の環境整備に努めているほか、会社の重要な決定をはじめ、株主にとって、有用性の高い情報を積極的かつ速やかに開示しております。

株主以外のステークホルダーとの適切な協働

ヤチヨは、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の創出においてさまざまなステークホルダーとの協働が必要不可欠と認識しております。

ヤチヨの社会への関わりや果たすべき役割などを示す「ヤチヨ企業理念」を制定し、「人間尊重」「顧客第一」という基本理念のもと、「社会からその存在を認められ、期待される企業」を目指して、事業活動を行っております。また、ステークホルダーの信頼をより確かなものにするため、ヤチヨで働く一人ひとりが共有する行動規範として「ヤチヨ行動規範」を定め、経営陣が先頭に立って実践し、広く浸透させることで、ステークホルダーの権利・立場や企業倫理を尊重する企業文化や風土づくりに努めております。

適切な情報開示と透明性の確保

ヤチヨは、経営の公平性や透明性を高め、ステークホルダーに正しく会社を評価・理解していただく上で、適切な情報開示を行うことが重要であると考えております。そのためには、法令に基づく開示情報だけでなく、株主をはじめとするステークホルダーにとって重要性が高いと判断した情報につきましては、任意で適時開示を行っております。また、企業ウェブサイトなどを通じて、財務情報のほか、企業理念や経営計画、CSRへの取り組みなど会社に関係する情報を積極的に開示しております。

取締役会等の責務

ヤチヨは、取締役会および経営会議において、企業戦略等の方向性を決定しております。取締役会および経営会議では、経営幹部からの提案を随時受け付けており、上程された提案については、十分に審議しております。その実行にあたっては、経営幹部の意思決定を尊重しております。また、取締役、監査役の一部に社外役員を選任することで、取締役の職務執行に対して、実効性および独立性の高い監督体制を構築しております。

株主との対話

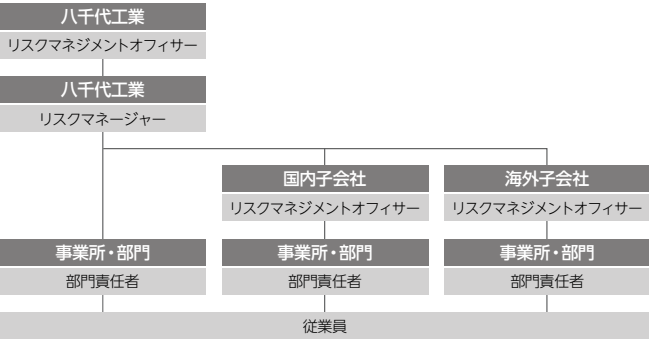
ヤチヨは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上には、株主、投資家と積極的に対話を行い、意見や要望を経営に反映していくことが重要と考えております。そのため、社内にIR担当を設置し、積極的に株主や投資家との対話に努めております。具体的には、企業ウェブサイトによる情報開示や決算説明会および機関投資家との個別面談などの活動を行っております。

リスクマネジメント基本方針

- 基本方針
- 企業を取り巻くリスクを認識し、その発生可能性の低下と発生時の影響低減を図ることで、ヤチヨで働く全ての人々と地域住民の安全と健康を守り、企業活動の発展を確保します。
 - 重大な危機が発生した場合は、迅速な対応を行い、人命の安全を確保するとともに、被害を最小限に食い止め、早期復旧を図り、お客さまへの製品・サービスの安定供給責任を果たします。
- 行動指針
- 全ての行動において、人命の安全を最優先とする。
 - ヤチヨで働く全ての人々が、平常時よりリスクマネジメントの意識を持って行動する。
 - 業務遂行におけるリスクを認識するとともに未然の防止策を策定する。
 - 自らの安全確保ののち、まずは家族の安否を確認した上で業務に復帰する。
 - 危機対応の方針、体制、責任を明確にし、業務の迅速な復旧を図る。
 - 危機対応、復旧活動などの対策は、継続的な改善を図る。
 - 社会や経営に重大な影響を与えるリスクに関し、適宜情報の開示を行う。

リスクマネジメント体制

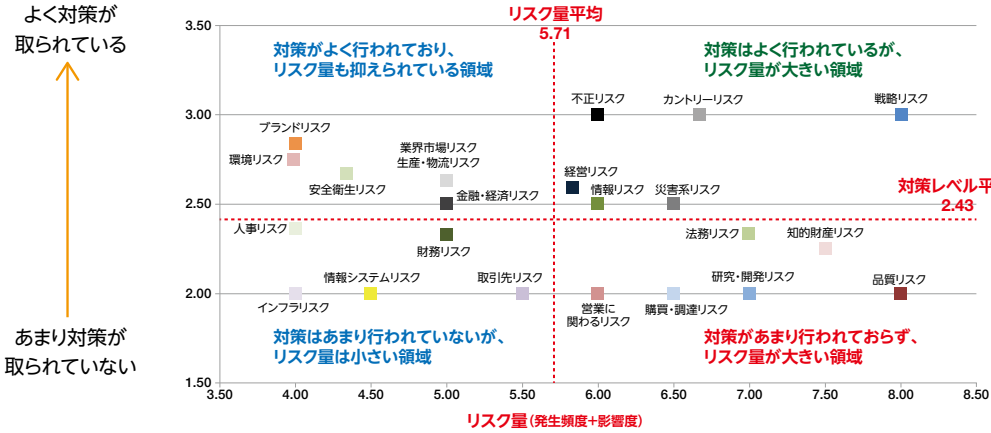
ヤチヨグループとして、リスクマネジメントへの取り組みをさらに迅速なものとするため、すべての事業所と直結の体制としました。



リスクマネジメント実績

2020年度リスクアセスメント結果からマッピングによるリスクの見える化を図り、優先的に対策を取るべきリスクを明確にしました。

● リスク量とコントロールの関係性



ヤチヨグループ(国内・海外子会社含む)で、各々重点リスクを抽出しPDCA展開を行うことで、リスク度の低減を図る活動を実施しました。

新型コロナウイルス感染症に伴うリスク対応

新型コロナウイルス感染症に対し、BCPを発動し対策本部を設け、ヤチヨグループで従業員対応、操業対応、サプライチェーンに係る部品供給対応を図り、従業員の安全を確保するとともに事業の停滞を最小限に抑えました。

株主・投資家コミュニケーション

適時・適切な情報の開示

透明性の高い企業であり続けるために、株主・投資家の皆さまに適切な情報開示の促進を図り、積極的なコミュニケーションを取ることが重要であると捉えています。

6/3

招集通知発行(株主通信)



6/9

通期 決算説明会 開催

6/23

- 第68回 定時株主総会 開催 説明資料掲載



- 事業方針説明会 開催 説明資料掲載



- 製品展示



2020



9/30

CSR報告書発行



9/30

アニュアルレポート発行



11/4

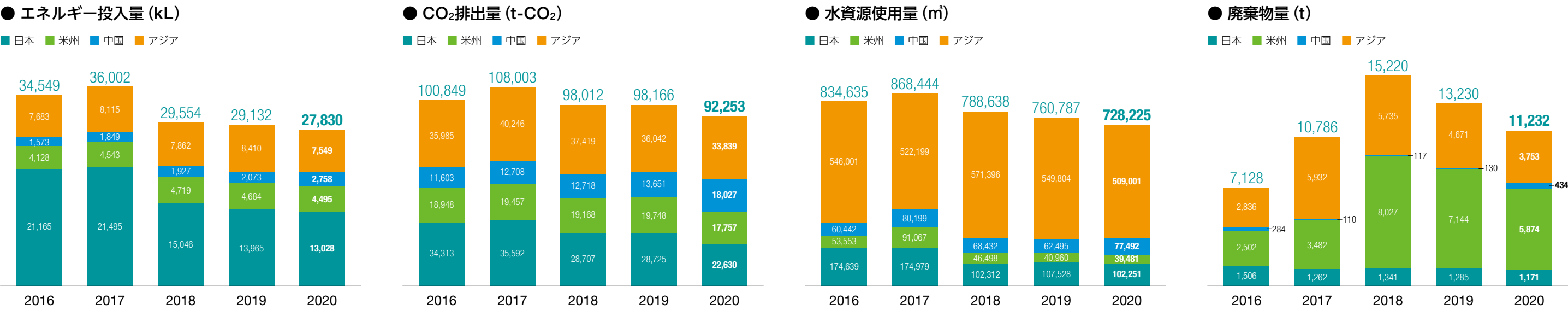
第2四半期決算説明会

11/26

株主通信発行



環境データ



地域	対象事業所 (正規従業員数)	エネルギー資源										廃棄物
		電気 (MWh)	プロパンガス (kg)	都市ガス (千m³)	天然ガス (千m³)	灯油 (kL)	ガソリン (kL)	軽油 (kL)	重油 (kL)	E20エタノール／ガソリン (kL)	水 (m³)	処分量 (t)
日本	本社および柏原工場 (435名)	9,902	7,141	406	0	0	0	0	0	0	22,217	232
	鈴鹿工場 (85名)	6,996	0	1,035	0	0	0	0	0	0	26,055	120
	亀山事業所 (135名)	9,216	0	412	0	0	0	0	0	0	19,141	190
	栃木研究所 (112名)	4,010	2,062	0	0	20	0	0	0	0	4,647	62
	埼玉研究所 (71名)	1,484	285	0	0	0	0	0	0	0	3,660	31
	合志技研工業株式会社 (399名)	4,144	144,851	294	0	265	10	21	69	0	22,526	467
	株式会社ウエムラテック (137名)	2,865	12,048	0	0	1	5	2	0	0	4,005	69
米州	ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド (38名)	912	0	0	22	0	0	0	0	0	390	46
	ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド (340名)	23,763	37,221	0	303	0	0	9	0	0	11,769	4,030
	エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド (224名)	3,432	0	0	489	0	0	0	0	0	12,403	644
	ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー (179名)	8,391	0	0	0	0	0	0	0	0	4,097	682
	ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー ブイ (136名)	2,381	3	0	0	0	0	0	0	0	9,044	406
	ヤチヨ ド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ベサス リミターダ (49名)	1,295	1,513	0	0	0	0	1	0	0	1,778	66
中国	八千代工業 (中山) 有限公司 (483名)	13,867	0	0	20	0	16	0	0	0	40,618	41
	八千代工業 (武漢) 有限公司 (625名)	15,397	0	0	10	0	0	1	0	0	36,874	393
アジア	サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド (403名)	10,577	167,084	0	0	0	0	0	0	0	82,710	181
	ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド (57名)	3,212	0	0	0	0	24	66	0	0	2,036	0
	ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア (33名)	992	0	0	0	0	0	0	0	0	1,463	1
	サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド (844名)	16,730	13,248	0	967	14	1	7	0	37	221,278	1,146
	ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド (273名)	1,903	0	0	0	0	0	380	0	0	2,700	540
	ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド (1,380名)	20,504	488,199	0	0	0	36	48	0	0	147,982	1,233
	ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド (381名)	2,188	62,885	0	0	0	9	10	0	0	50,832	652

財務・非財務ハイライト

連結財務関連データ

百万円（1株当たり情報および財務指標を除く）

	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期
売上収益（継続事業）	138,979	165,562	161,160	154,629	157,231
税引前利益（継続事業）	8,982	9,223	928	807	6,110
当期利益又は当期損失（全事業）	6,884	7,555	△1,697	△1,838	226
親会社の所有者に帰属する当期利益又は当期損失（全事業）	4,743	4,796	△4,335	△3,169	666
当期包括利益（全事業）	6,788	6,849	△2,521	△4,810	5,583
親会社の所有者に帰属する持分	55,475	59,008	53,157	47,386	52,663
資産合計	130,943	131,278	118,832	117,219	126,448
1株当たり親会社所有者帰属持分（円）	2,310.16	2,457.30	2,213.64	1,973.31	2,199.82
基本的1株当たり当期利益又は基本的1株当たり当期損失（円）	197.51	199.73	△180.51	△131.97	27.77
希薄化後1株当たり当期利益（円）	—	—	—	—	—
株価収益率（倍）	6.5	6.7	—	—	23.0
親会社所有者帰属持分比率（％）	42.4	44.9	44.7	40.4	41.6
親会社所有者帰属持分利益率（％）	8.9	8.4	△7.7	△6.3	1.3
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,480	19,125	13,581	12,844	8,889
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,163	△9,325	△8,962	△11,465	△ 7,337
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,007	△7,488	△3,197	4,601	△ 6,589
現金及び現金同等物の期末残高	16,693	19,010	20,470	25,121	21,738

1. 国際会計基準に基づいて連結財務諸表を作成しております。
2. 売上収益には、消費税等を含めておりません。
3. 百万円未満を四捨五入して記載しております。
4. 希薄化後1株当たり当期利益については、希薄化効果を有する株式が存在しないため記載しておりません。
5. 2019年3月期および2020年3月期の株価収益率については、当期損失であるため記載しておりません。
6. 2018年3月期（2017年12月18日）開催の取締役会において、完成車事業を本田技研工業株式会社に譲渡することを決議し、同日付で株式譲渡契約を締結したことに伴い同事業を非継続事業に分類し、2017年3月期を組換後の数値にて記載しております。

非財務関連データ（八千代工業単独）

	2017年 3月期	2018年 3月期	2019年 3月期	2020年 3月期	2021年 3月期
国内正規従業員数	1,358人	868人	875人	867人	838人
女性従業員割合	3.8%	5.1%	5.4%	5.0%	5.7%
管理職に占める女性比率	0.55%	0.57%	0.58%	0.60%	0.65%
障がい者雇用人数	19人	19人	17人	19人	20人
障がい者雇用率	2.58%	2.80%	2.30%	2.73%	2.64%
取締役人数	7人	7人	6人	7人	5人
(内 社外取締役)	1人	1人	1人	1人	2人
監査役人数	4人	4人	4人	4人	4人
(内 社外監査役)	3人	3人	3人	3人	3人
役員報酬総額	226百万円	217百万円	179百万円	203百万円	143百万円
新卒採用人数	4人	14人	13人	19人	16人
中途採用人数	7人	10人	24人	10人	9人
中途採用比率	63.6%	41.7%	64.9%	34.5%	36.0%
女性採用人数	1人	3人	6人	1人	6人
(内 新卒採用人数)	0人	3人	2人	1人	1人
(内 中途採用人数)	1人	0人	4人	0人	5人
女性採用比率	9.1%	12.5%	16.2%	3.4%	24.0%
新卒3年以内離職人数	1人	1人	0人	6人	2人
新卒3年以内離職率	4.17%	3.70%	0.00%	13.33%	4.76%
産前産後休暇取得人数	1人	2人	2人	1人	3人
育児休職取得人数	7人	7人	5人	7人	8人
育児短縮時間勤務利用人数	11人	11人	12人	11人	11人
介護休職取得人数	0人	1人	1人	0人	2人

集計対象期間

2020年度（2020年4月1日~2021年3月31日）

対象事業所

〈国内〉

八千代工業

本社および柏原工場（埼玉県狭山市）
鈴鹿工場（三重県鈴鹿市）
亀山事業所（三重県亀山市）
栃木研究所（栃木県さくら市）
埼玉研究所（埼玉県狭山市）

国内子会社

合志技研工業株式会社（熊本県合志市）
株式会社ウエムラテック（熊本県球磨郡あさぎり町、熊本県合志市）

〈海外〉

八千代工業 海外子会社

ヤチヨ オブ アメリカ インコーポレーテッド（米国）
エーワイ マニュファクチュアリング リミテッド（米国）
ユー エス ヤチヨ インコーポレーテッド（米国）
ヤチヨ マニュファクチュアリング オブ アメリカ エル エル シー（米国）
ヤチヨ メキシコ マニュファクチュアリング エス エー デシー プイ（メキシコ）
ヤチヨド ブラジル インダストリア エ コメルシオ デ ペサス リミターダ（ブラジル）
八千代工業（中山）有限公司（中国）
八千代工業（武漢）有限公司（中国）
サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド（タイ）
ヤチヨ インディア マニュファクチュアリング プライベート リミテッド（インド）
ピー ティー ヤチヨ トリミトラ インドネシア（インドネシア）

合志技研工業 海外子会社

サイアム ゴウシ マニュファクチュアリング カンパニー リミテッド（タイ）
ゴウシ タンロン オートパーツ カンパニー リミテッド（ベトナム）
ゴウシ インディア オートパーツ プライベート リミテッド（インド）
ゴウシ フィリピン インコーポレーテッド（フィリピン）

〈対象としていない子会社および関連会社〉

- 対象期間における事業活動を行っていません。
ラグナ アソシエ リアルティ インコーポレーテッド（フィリピン）
- 事業活動を現地賃貸事務所で行っており、含めていません。
ヤチヨ ジャーマニー ゲー エム ベー ハー（ドイツ）

発行サイクル

年1回（前回発行：2020年9月）

参考ガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン（2018年版）」および「GRIスタンダード（サステナビリティ報告ガイドライン）」。

■環境情報の公開

ヤチヨは、企業ウェブサイトを通じて環境への取り組みを公開し、本報告書を掲載しています。

八千代工業ウェブサイト「CSRへの取り組み」

<https://www.yachiyo-ind.co.jp/profile/csr/>





八千代工業株式会社

〒350-1335 埼玉県狭山市柏原393

TEL : 04-2955-1211 (代表)



発行2021年9月